

養成講座開始 会場いっぱい 熱心に受講

5月10日から始まった今年度の養成講座は、熱心な雰囲気の中で順調に進行中。一宮市の福祉の状況、居室での心得等を勉強、在宅での介護の支えに。また、わらび福祉園の島崎園長は、「障害者の心理を知ることが大切であり、知ることは愛することである」と。愛知淑徳大学の江口先生からは、「障害者やお年寄りの方とかわるとき、我々には辛抱強く、強くないで彼らの存在そのものにひたすら関心を忘れないで持ち続けることではないだろうか」と、とても重い言葉。又「人にかかわるとき、自分を知ることの大切さ」も話されました。その他、80才の高齢者を疑似体験したり、お年寄りのレクリエーション実習等には様々な発見があり、講座前半を有意義に終えることが出来ました。

◆◆◆ まごころサービスの小さな手助けが他機関との連携の中で生かされています ◆◆◆

退院に向けて

一宮市に隣接する市にお住まいのSさん。退院後もめまいの為に寝たきりの状態でベッドを三十度すら起こす事も出来ない程でした。退院に当たって、病院ではソーシャルワーカーさんを中心し、在宅に向けての相談準備が始まりました。

介護者の希望

ご夫婦お二人暮らしの奥様から在宅での介護にあたって出された希望は、「一人介護の不安への対応」と、「週に一回二日外出したい」という事でした。十年來ずっとやってこられたことを続ける為に、一日誰かにSさんをみていたいただきたいという事でした。

足りない部分

退院後の在宅で一人介護にかかわる不安には訪問看護婦さんの派遣が決まり、次に、奥様の外出には午前中はホームヘルパーさんが決まりました。問題は午後4時までの時間をどうするか。いろいろ探されたようですが、どうしても継続的にお願い出来るところがなく、まごころサービスへ依頼をいただきました。

少しの手助けが

まごころサービスが週に一度数時間お手伝いすることで毎日介護される奥様の気持ちに添えることが出来るれば、また介護を受けられるご主人もお喜びに違いありません。

連携をとって

Sさん、奥様、ソーシャルワーカーさん、訪問看護婦さんからの指示、指導をいただき、また午前中のホームヘルパーさんのケア内容も参考にさせて頂いた。この連携を図りながらのケア訪問が続いております。今では、Sさんは大変お元気になられ、ベッドから離れて数十分なら椅子に腰掛けられています。

私共に依頼を受けるケアの中には、訪問が毎日必要な方から週に二〜三回の方、二週間に一度の方まで様々です。この事例のように、行政サービスとの連携によって、まごころサービスが週一回三時間というわずかなかわりを持つだけで、大きな安心と心の余裕を得ていただけです。在宅での介護に必要なのは、ほんの小さな助け合いではないかと思えます。

市長さんと懇談

会への理解と支援をお願いします

去る5月19日(金)、30分という短い時間ではありましたが、市長さんとお話し出来る機会を持つことが出来ました。

市長さんには、この会が有償であってもボランティア団体であり、当センターの活動がこの地域に必要なものであることを理解していただき、その上で、いろんな形のご支援をお願いしたいとお話し致しました。

会を一番理解していただける具体的なケア事例やその他の活動については、残念ながら時間の都合上出来ませんでした。

市長さんのお話しでは、在宅介護福祉施策で一番力を入れられておられるのは、ホームヘルプサービスの充実であるということでした。さらに、市のホームヘルプサービスと住民参加型在宅福祉サービスがどうかかわっていくかについて問題を提起されました。

また、まごころサービス尾張センターへの支援については、どんな形で援助が出来るか分からないが出来るだけ努力していきたいとのご意向を伺うことが出来ました。

さらに、「息の長い活動にして下さい」と励ましの言葉までいただきました。発足以来、会への理解をいただきたく、この機会を待っておりました。

お忙しい時間をお作り下さいました市長さん、同席下さいました福祉部長、高年福祉課長さんに心から感謝申し上げます。

運営委員5人が参加しました

4月活動状況

活動件数	16件
活動人数	37人
活動時間	245.5時間

4月会員登録状況

協力会員	49人
利用会員	32人
賛助会員	105人
計	186人

